



# 暁鐘の音

NO. 29

(かねのね)

秋田大学教職大学院 2023.7.31

## ポストコロナへ

教職実践専攻 (教職大学院)

専攻長 田仲 誠祐

本教職大学院は今年で8年目を迎え、いよいよ開設10周年が視野に入ってきました。私は本学に赴任して9年目であり、準備段階からこの教職大学院と共に歩んで来たためとても感慨深く感じております。特に、昨年度までの3年間は新型コロナウイルスへの対応もあったため、変化に富んだ凝縮した時間を過ごしてきたといえます。

今年5月、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、経済活動や人の移動も以前のように活発になり、学校の教育活動も通常に戻ってきました。しかし、確かなことは、社会や教育現場がコロナ禍以前の状況にそのまま戻ったのではないということです。新型コロナウイルス感染症は、人々のものの考え方、働き方、行動様式を大きく変えました。今、アフターコロナを迎え、新型コロナウイルス感染症は社会をどう変えたのか、人類に何を教えたのか、問い直してみることが必要でしょう。それにより、ポストコロナの有り様、教育の方向性がより具体的に見えてくると考えます。

教育現場の重大な変化の一例として、ICTとの向き合い方を挙げるができるのではないでし

ょうか。私自身、振り返ると授業の捉え方が大きく変わりました。以前の私はSociety3.0時代である工業社会の授業モデルを抜け切れていなかったと自省しております。「教室に教師と学生がいてこそ授業が始まる」、「授業の基本的アイテムは黒板、教科書、ノート+α」という先入観をもっていただいていたように思うのです。この3年間の経験は、「授業の場・形態はいくらでもあり得る」ということを私に教えてくれました。これまで忌避してきた遠隔授業は、学生がより主体的な学びを進める可能性を内包していたのです。ネット空間には学習資源が豊富にあって、興味・関心さえもてば、学びをいくらでも広げ・深めることが可能です。生成型AIも活用次第によっては、大きな可能性が広がると考えられます。

教職大学院設立以来、私たちは新型コロナウイルスという未曾有の災害を経験しました。2年後の設立10周年は、新型コロナウイルスから学んだことをどう生かすか、生かしてきたかを振り返る機会にもなるのではないかと考えています。

## 教員として大切にしてほしいこと ～思いを笑顔に込めて～

教職実践専攻 (教職大学院)

特別教授 千葉 圭子

自主ゼミ等で採用試験の面接練習をしている中で、「教員として大切だと思うことは何ですか？」の問いに「前向きな思考」「子ども一人一人を大切

に思う心」「教育愛」等々と、6人いると6人が異なる回答をし、教育に向ける熱い思いや大きな可能性を感じます。私自身の採用試験のときにも「愛

情」とか「待つ心」と答えた記憶があります。「大切」なものとは、なりたい教師像とも似ていて、一人一人が違うものなのかもしれません。

この3月に小学校教員を定年退職し、改めてこの問い「教員として大切だと思うことは何ですか？」に答えるとしたら、それは、「笑顔」であると答えると思います。その思いを強くしたエピソードを二つ紹介します。一つ目は、教職に就いて、10年ほど経ったとき、担任学級である5年生の新聞係の子どもが学級新聞の記事で実施した「担任の千葉先生に大切にされていると感じるとき」というアンケートの結果でした。私の予想は、「勉強を熱心に教えてくれる」「逆上りができるまでサポートしてくれた」「困ったときに助けてくれた」など私自身ががんばっていることや印象に残っていることなどがあがって来るものと思っていました。ところが、結果は、「笑顔で見えてくれる」が上位となったのです。「先生は、私やみんなの話をいつも笑顔で楽しそうに聞いてくれる」「テスト中に顔を上げたら先生が笑顔で見えてくれて、がんばろ

うと思った」等々、特別なことではなく日常の何気ない仕草である笑顔が子どもたちには自分を大切に思ってくれるメッセージとして伝わっていることを自覚したのです。二つ目のエピソードは、校長になってからのことです。あるとき、教頭先生から「校長先生は『和顔施』ですね。」と声を掛けられたのです。「和顔施（わがんせ）」とは、仏教世界における「無財の七施」の一つで、にっこり穏やかな表情で話しかけて相手に笑顔を上げる行為とされているものだそうです。私は、そんな徳のある人間ではありませんが、教頭先生から私の笑顔に職員が安心感をもって働くことができるとの話を聞き嬉しく思いました。

たくさんの思いを一つ一つ言葉にすることは、難しいとしても、笑顔によって、自分の思いを相手に伝えられることが多くあることを知りました。教員にとって大切なものは、たくさんあると思いますが、まずは、「笑顔」を大切にしてほしいと思っています。

### 教職大学院で学部卒院生と関わって

学校マネジメントコース

現職院生1年次 小田嶋 寿

ここ数か月、お陰様により楽しく有意義な日々を過ごしています。想像もつかない世界に飛び込んだのですが、ネット通信やハイウェイでの通勤、90分授業にもだいぶ慣れました。講義や院生室にて、また各種行事や実習を通じて部卒院生とは共に過ごしてきました。自分にとってそれはそれは大きな刺激になっていますし、毎日助かっています。この3か月における変化と継承すべきものを挙げさせていただきます。

#### 【卒院生から学んだこと】

ICTが少し使えるようになりました。

〈丁寧に教えてくれたおかげです〉  
時間を守るようになりました。

〈悪い手本とならぬよう気を付けています〉  
人の話を聴けるようになりました。

〈卒院生の皆さんは本当によく聴きます〉  
楽しく教材研究ができました。

〈勉強を教えるって実は楽しいものですね〉  
身の回りを整理整頓するようになりました。

〈みんな机上がとてもきれいです〉  
おやじギャグに磨きがかかりました。

〈だいたい8割は笑ってくれます〉  
身だしなみを整えるようにしています。

〈「トレパンが正装」から進化〉  
先輩づらが板についてきました。  
〈余計なことは教えないようにいたします〉  
時間の大切さを感じています。  
〈卒院生のメリハリはお手本です〉  
ゴールを考えないようにしています。  
〈自分にもやれることがあると信じて〉



若い人の感性や意思疎通能力、勤勉さ、日々節制する姿には日々感服しています。  
中学校の担任時代、教室に掲示していた石坂洋次郎『若い人』の一節を、ふと思い出しました。  
【小さな完成よりもあなたの孕んでいる未完成の方がはるかに大きなものがあることを忘れてはならないと思う】  
—今の自分に言われているようです。



### 秋田大学 教職大学院に来てよかったこと

カリキュラム・授業開発コース  
学部卒院生1年次 畠山 陽輔

秋田大学教職大学院に入学して約4ヶ月が経過した。他大学を卒業した私は、新たな環境で多くのことを学んでいる。忙しいと感じることもあるが、共に学んでいるストレートマスター(以降、ストマス)の仲間や現職院生の方々から多くの学びを得ることができ、非常に充実した毎日を過ごしている。

教職大学院の学びの中でも特に現職院生との意見交流を行える講義が楽しく、充実したものになっている。特に「秋田県の授業力の継承と発展」「学校教育の現代的課題」の二つが、授業作りの新たな視点を与えてくれたり、学校現場の現状をエピソードと共に伝えてくれたりする場面が多く、学校現場にまだ出ていない私には非常に参考になり、楽しいものになっている。現職院生の方々は、私たちストレートマスターにも非常に優しく接し

てくださり、居心地の良い空間で過ごすことができている。

院生室という空間も、教職大学院の魅力の一つであるように感じている。ストマスの仲間と一緒に昼ご飯を食べたりおしゃべりをしたりする時間も楽しく、大切な時間となっている。違う校種のストマスと実習での出来事を話し合ったり、次の実習でやる予定の授業を見せ合って練習をしたり、というのが日常的に当たり前の光景になっており、ストマスの仲間の存在を非常に心強く思っている。また院生室ごとに飲み会を開催したりするなど、よりリラックスした場で交流することも非常に楽しい。前期がもうすぐ終わりを迎えるが後期にはさらに仲を深めて、勉強だけでなく皆さんの思い出も作っていきたい。

## 浪漫飛行♪ -夏の思い出-

学校マネジメントコース  
現職院生1年次 片岡 淑人

平成2年の夏、私は通信教育による小学校教諭免許状取得のため、2週間にわたり東京の玉川大学のスクーリングに通っていました。間近に控えた教員採用試験への準備と免許取得の勉強が重なり、23歳の夏は人生の中で最も苦しく、もがいた夏でした。

大学前の中華料理店で一人寂しく夕食をとっている時、テレビCMの軽やかな曲が流れてきました。米米CLUBの「浪漫飛行」♪です。このJALの沖縄夏離宮キャンペーン曲は、「本当に受かるのかな」という不安で鬱々と生活する私を勇気づけるほどにソウル&ファンキーであり、軽快なメロディには親しみやすさがありました。また、失敗を恐れず前進することを応援する歌詞には、私の背中を押してくれる力がありました。

「そこから“逃げだす”ことは誰にでもできることさ」

「あきらめという名の傘じゃ雨はしのげない」

浪漫飛行 作詞・作曲：米米CLUB

編曲：米米クラブ・中崎英也 1990年 から

ふと気づくと、なぜか涙の味をするチャーハンになっていたことを覚えています。

この「浪漫飛行」がここ数年脚光を浴びています。累計ストリーミング再生数は1億回を超え、Spotify年間ランキングで「2022年に最も再生された80年代の楽曲」の1位となったそうです。(配信ニュース「ミュージック・ヴォイス」から) コロナ禍明けの気運の中、新生活への展望を想起させるこの曲に、日本人は再び勇気づけられているのかもしれないですね。

令和5年の夏、沖縄へ行こうと思っています。海を眺めながら、夢をあきらめず自分なりに努力してきたこの30年をゆっくり振り返る時間になりたいです。



## 実習や研修旅行で楽しみたいことや学びたいと思っていること

発達教育・特別支援教育コース  
学部卒院生2年次 山田 有輝也

教職大学院に入学してから、講義や日々の実習などを通して、たくさんの刺激を受けている。その中で、教職大学院の大きな特徴でもある実習と研修旅行について、楽しみなこと、学びたいことについて述べる。

大学院2年目となった今年度は、毎週火曜日に公立の特別支援学校で年間30日の実習を行っている。学校の規模も大きく、個性豊かな子どもと触れ合う機会が多くある。様々な子どもと関わる

ことで、実践力を磨くとともに自らの研究テーマについて焦点化することができる。私の研究テーマである知的障害者の「余暇」を基盤とした移行支援に向けた取り組みの実践に向け、学校現場の指導上の課題や子どもの実態把握に努めている。また、校内現場実習や作業学習、部活動参加など幅広い経験を行うことができている。実際の現場でしか経験することのできない有意義な学びの場となっている。

10 月には1泊2日の日程で大館方面にて研修旅行を行う予定である。教育長のご講話や、大館花岡地区の戦争遺構の見学を通して、歴史教育について体験的に学びを深めたい。特に、自分の専門校種の特別支援教育では、教育資源を活用した様々な実践が行われている。研修旅行を通して、様々な教育資源の活用方法について考え、自らの

実践に役立てたい。また、個人的に大館方面の旅行は初めてであるため、研修、観光共に楽しみたい。

インターンシップや研修旅行、講義、他の院生との交流など様々な学びの機会を大切にし、教師としての確かな力量を身に付けていきたい。

### 教職大学院生 座右の銘

#### ◇現職院生1年次

大内 秀朗 さん・・・「世の中に自分の知らないことがたくさんあると知れば知るほど、人は謙虚になる」

小田嶋 寿 さん・・・「大切なのは、本当に自分のしたいことを自分で知っていること」

片岡 淑人 さん・・・「やりたいことはやる。やらなければいけないことはしっかりやる。」  
を心掛けて暮らしています。

川越真紀子 さん・・・「風向きは立ち位置で変わる」

神田 雄樹 さん・・・「練習は嘘をつかない」

齊藤 道太 さん・・・「Heaven helps those who help themselves. (天佑自助)」

佐々木 譲 さん・・・「継続は力なり」

林 栄美子 さん・・・「日日は好日」

1年の中には晴れの日と雨の日があり、どちらがよい悪いということではなくそれぞれのよい所に目を向けることが大切。人生もまた然り。雨の日にこそ、明日の晴れを信じて前を向いていきたい。

三浦 雄司 さん・・・「明けない夜はない。」

吉田 英亮 さん・・・公式には「克己」、プライベートでは「No Travel, No Life.」

#### ◇学部卒院生2年生

亀山 雄也 さん・・・「やさしくなりたい。」

須藤よしの さん・・・「いろんなことを勉強したい」

知らないことだらけだからです。頑張りたいです。

武石 早穂 さん・・・「無知の知」

いつ何時も無知を自覚せよ！

佐藤茅奈美 さん・・・「大丈夫、全てうまく行っている。」

山田有輝也 さん・・・「千里の道も一歩から」

◇学部卒院生1年生

- 安部 大成 さん・・・「Partido a partido」  
闘将シメオネがよく遣う言葉で、目の前のものからコツコツと、というのがかっこいいから。
- 安藤のどか さん・・・「今できることを明日に回すな」  
暁鐘の音 No. 24 の林信太郎先生の言葉です。今できることは何か、自分の時間を大切にしたいです。
- 加藤 毬乃 さん・・・「何事もバランスが大事」  
適度に頑張り、適度にリラックスしてメリハリのついた大学院生活を送りたい。
- 熊谷 魁 さん・・・「やらなくてもいいことはやらない。やらなければいけないことは手短かに。」  
全部できる力はないので、選択して効率よく生きたいです。
- 高橋 想奈 さん・・・「若き故の熱さと愚かさを大切に」  
失敗して当たり前！という想いで、挑戦し続けたい。いい意味で貪欲に、いろんなことに取り組みたい。
- 土田 訓徳 さん・・・「All things are possible until they are proved impossible - and even the impossible may only be so, as of now.」  
アメリカの小説家 Pearl S. Buck パール・S・バックの言葉。  
自分をいつも奮い立たせてくれる言葉。どんなことでも可能にできるって思わせてくれる言葉だから大切にしています。
- 長澤 未姫 さん・・・「豊成」  
地元の名前です。豊かな人間に成りたいです。
- 畠山 陽輔 さん・・・「It always seems impossible until it's done.」  
ネルソン・マンデラの言葉です。しんどい時に気合いを入れてくれます。
- 福原 航平 さん・・・「後に自分が後悔しないように」  
後から振り返って自分が後悔しないように行動することを意識している。
- 米屋 千陽 さん・・・「All is well ☺」  
何事もうまくいくと信じて、最後まで諦めず、笑顔で頑張りたいたいです。
- 伊東 大樹 さん・・・「小さきは小さきままに 折れたるは折れたるままに コスモスの花咲く」  
誠実な行動を心掛けたいです。
- 東海林 天 さん・・・「You are you, I'm me.」  
IVEのメンバー、チャン・ウォニョンの言葉です。  
ウォニョンのように何を言われても気にせず、芯のある心を手に入れたいです。
- 須田 光将 さん・・・「追い詰められたら、ニヤーン、とでも言っておきなさい」  
心に余裕を持つようになっています。

6年一貫プログラム履修生

- 小林亜莉亜 さん・・・「We're just "FLOATING" .」  
誰かに縛られず、自分のやりたいことをやりたいです。

## 結びに

この度は、暁鐘の音 29 号をご覧いただき、ありがとうございます。今回の 29 号では、教育に関するテーマはもちろんのこと、「夏」という季節にも焦点を当てて原稿を依頼させていただきました。今年は大くさんの夏のイベントが、かつての頃のように行われております。新型コロナウイルスが流行する前の夏の活気が戻ってきたこと、本当に喜ばしい限りです。2023 年、皆さんが素敵な夏を過ごすことができるように祈っております。

暁鐘の音 29 号編集担当 東海林天

## 8 月・9 月・10 月の行事予定

2023 年

8 月 10 日（木） 惟落の会

9 月 26 日（火） 今年度の研究計画（1 年次）及び中間発表（2 年次）

10 月 5・6 日（木・金） 研修旅行